

2016

1号

トトモニ

しおじり協働通信
平成28年7月

ご自由にお持ちください

トトモニ

1号
2016

しおじり協働通信トトモニ 平成28年度 第1号 (7月発行)

TEKE FREE

特集「あのひととともに」

ちび商人 (あきんど)

中島裕子さん

塩尻産野菜の魅力を伝えたい!

●市民のみなさんへお知らせ

●市民活動の無料相談受付中!

市民のみなさんへ お知らせ

まちチャレセミナー「ソーシャルメディア広報術」参加者募集中!

将来のまちづくりの担い手となる市民公益活動団体を応援する『まちチャレセミナー』を開催します。今年度3回開催する「まちチャレセミナー」の2回目は、団体の活動を多くの人に知ってもらうためのソーシャルメディア広報術について学ぶ講座です。参加費は無料で、どなたでも参加できます!

日時: 2016年8月25日(木) 19:00 ~ 21:00

場所: 塩尻市市民交流センター えんぱーく 4階 会議室 401

定員: 30名 (申し込み先着順、どなたでも参加できます)

申込み: 塩尻市市民交流センター 交流支援課、NPO法人えんのわ

参加
無料!

講師・講座内容



生田和徳 (NPO法人えんのわ理事長、FMまつもとパーソナリティ)

① 基本編: いまさら聞けないソーシャルメディアのABC

② 応用編: 動画を活用したPR・Youtube等の活用方法を紹介

※市民交流センター市民営提案事業

NPO・市民活動の無料相談を受付けています!

「こんなことしたい、できたらいいな」を応援します。実現に向けた最初の一步を、一緒に考えましょう! NPO法人えんのわのメンバーが、みなさんのサポートをします!

えんぱーく2階のフリーコミュニティで、ご相談受付中!

相談
受付日

7月4日(月) ... 18時30分~20時30分

11日(月)、26日(火) ... 10時~14時

8月11日(木)、26日(金) ... 10時~14時

会場: えんぱーく2階フリーコミュニティ



※市民交流センター市民営提案事業

市民公益活動に関する掲載記事やお知らせを募集しています! 詳しくは、えんのわまで!

本誌に関する
お問合せ先

発行 塩尻市市民交流センター 交流支援課

〒399-0736 塩尻市大門一番町12-2 TEL:0263-53-3350(内線4221)

E-mail:collabo@city.shiojiri.lg.jp http://enpark.info/

編集 特定非営利活動法人 えんのわ

〒399-0736 塩尻市大門一番町12-2 TEL/FAX:0263-54-3320

E-mail:ennowa@hotmail.co.jp

まちチャレ情報

塩尻市では、協働のまちづくり基金を活用して、新たなまちづくりの担い手となる団体や活動を応援する補助金を交付しています。平成28年度まちづくりチャレンジ事業（発展型：ステップアップ）では、公開選考会を経て6事業が採択されました。

① ことばキャンプ長野

助成額
20万円

事業名 子どもたちの生きる力、コミュニケーション力育成事業

子どもたちがコミュニケーション力を育むことで、自尊他尊の人間関係を構築できる世代を育成する。

② 特定非営利活動法人 NPOホットライン信州

助成額
20万円

事業名 信州ふれあい食堂

子どもたちが安心感と自己肯定感を抱ける居場所づくり。

③ ちび商人(あきんど)

助成額
20万円

事業名 地元産の旬の「美味しい」を地元の皆さんに届けるプチマルシェ「ちび商人」

地元で取れた旬の野菜の消費拡大を図りながら、人と人とのつながりを創出する。

④ さつき会

助成額
20万円

事業名 勝弦(かつつ)地域魅力アップ事業

勝弦地域の魅力を高め、観光資源の整備を行うことで観光客の回遊、誘致につなげる。

⑤ 塩尻「学び」マネジメント

助成額
20万円

事業名 塩尻「学び」マネジメント

子どもたちの主体的・協働的な「学び」を実践し、人間関係づくりと学力向上につなげる。

⑥ Go Global (ゴー グローカル)

助成額
20万円

事業名 グローカル留学事業

市民の国際力の向上を図り、グローバル化に対応できる人材を育てる。



▲ちび商人代表の友森シェフ(右)と



▲野菜を使った料理教室なども開催しています



塩尻の野菜は日本一！塩尻野菜の魅力を地元届けたい ちび商人(あきんど) 中島 裕子 さん

塩尻市の大門商店街通り沿い、露店で小さな市場(マルシェ)のようにして販売している野菜は、地元塩尻産の野菜だ。マルシェを運営しているのが市民活動団体の「ちび商人(あきんど)」(代表・友森隆司さん)である。扱っているのは農家で人出が足りずに出荷することができなかった野菜たち。事務局で運営を担当している中島裕子さんは、2014年4月からこの活動に携わっており、今年で3年目だ。「もともと野菜が大好きで、塩尻の美味しい野菜の魅力を発信したくて始めました」と話す。中島さんは野菜好きが高じて野菜ソムリエの資格も取得している。

ちび商人の活動は、団体代表でレストランオーナーシェフの友森隆司さんと中島さんが、農家の方と交わした何気ない話から始まった。農家のなり手が居ないと叫ばれて久しいが、塩尻の農家でも手が足りなかったり、出来過ぎたりして廃棄するだけの野菜が多くあった。中島さんは「廃棄されるなんてもったいない、地元のみなさんが手に取る機会を作りたいよね、なんて立ち話だったんです」と当初を振り返る。ちび商人の運営は現在7人のスタッフが参加しており、会員数は35人(取材時)、塩尻のまちづくりチャレンジ事業の支援等も受けて活動している。代表の友森さんは今後の展開について、「1年目は活動の周知、2年目はチャレンジ、3年目の今年は商売として

て成立できるか、そして来年4年目には企業とのマッチングも図りつつ、ビジネス展開を目指したい」と話す。また、6月25日(土)より塩尻産のこだわりの逸品と地元の新鮮野菜を販売するセレクトショップ兼マルシェ「こせくら」を大門3番町にオープンした。

野菜に恋する中島さんにその原点を聞いた。「結婚式作って頂いたバーニャカウダが衝撃的だったんです。野菜によって火の入れ方、調理法が違い、本当に美味しく。実はそれを作ったのが友森シェフだったんですけどね(笑)」と、野菜で得た縁が原点であり、現在にも繋がっている。今後は農家でのフィールドワーク等を行い、より地元に着着した情報と野菜の魅力を塩尻に届けてゆく。

トモニ
特集『あの人とともに』VOL.1